

レアメタルの市況予測 | メタルドゥ・藤田社長寄稿

Ni相場は世界需給に過不足なく値下がりしない

今年10～12月のニッケルとコバルト相場予測について、藤田國廣氏（メタルドゥ 社長）に寄稿してもらった。

ニッケルは2010年第4半期の世界需給に大きな過不足が無い。Vare Inco社（Sudbury）も10月から通常稼働に戻り、LME在庫の減少も一服状態である。

中国ではインフレ防止策として5月～6月の金融引き締めが功を奏し、住宅や不動産価格は予想通りの下落となったが、同時に建築や自動車の新規需要を減退させ、GDP全体を押さえ過ぎた。その結果がステンレスの需要減少に繋がり、生産調整を強いられている。当面アメリカ経済も成長が乏しく、ヨーロッパも域内の財政問題を抱え、日本も円高による競争力の低下等、2010年度末に向けては好材料が無い。中国や主要国が二番底回避への対策として（金融の）量的緩和や公的事業の拡大を行った場合は唯一、市場に資金の流動性が高まり、非鉄金属市場にも影響が出て、ニッケルも一段高となると考える。

年内のLME相場はUS\$10.43～11.34/lb（23,000～25,000/t）で推移すると予想する。

超合金や電池需要が横ばいでCo相場の変動が緩やか

コバルトは、7月30日にUS\$16.25/lbで底値を付けたLMB相場が、これといった反転要素は無いままに9月24日現在US\$19.25/lbまで上昇してきた。ほとんど下がり過ぎからの自律的な回復といえる。

航空機、発電用タービン等スーパーアロイ関連の生産も予定内で大きな変動もなく、コバルト系二次電池の生産もエコ関連商品の補助金打ち切りによる減産とスマートフォン等の人気とが緩衝し合って、大差はない状況で進むだろ

う。中国の内需も夏以降再び旺盛となってきたが、コバルト関連商品が地金の需給を揺るがす程ではないと考える。

中国が尖閣諸島や南シナ海問題で軍事的な行動を強化したり中東問題がさらに拡大したりなどすれば、投機的な動きがでる可能性はある。アメリカがコンゴ民主共和国及び周辺地域からの鉱物資源（タンタル、スズ、金等）の取引監視を強化しているが、コバルトは現在対象外である。今後この影響を受けないと想定すると、これから年末に向けての価格動向は緩やかなものになると思われる。低品位品（99.3%、LMB）でUS\$19.00～22.00/lbの範囲を予想する。